

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	表現を受け止めれる人になろうという理念をかが、住み慣れた地域で安心を得られる生活を送っていただけるよう取り組みました。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々会議の場を設け、理念についての説明や話し合いを行ない、理解を深める工夫に取り組んでいます。また、詰め所などの見え易い場所に理念を掲示しています。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	運営推進会議を通じて、地域の自治会長、民生委員、市役所職員とネットワークを繋いでいき、地域の方々との交流に取り組んでいます。	
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩の途中に、近隣の方へ挨拶していく中、顔見知りになり向こうからも、声をかけていただけるようになってきました。又、奥にある建物なので、看板を設置しています。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の自治会長、市の関係者の方達からの協力もあり、相撲部屋の見学や、力士の方と写真を撮らせていただいたり、恒例の行事として敬老の日やハロウィンの日に、地域の保育所の園児達が来てくれて、交流に繋がっています。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域密着として、各家庭で過ごされている高齢者の方と、互いの情報交換や、支え合うシステムに取り組んで行きたいと思っておりますが具体的には至っていません。	○	在宅にて少しでも長く過ごしていただけるように、運営推進会議にて話し合いの場を持っています。
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義と事業所全体で、把握共有する為、職員全体で自己評価を行っています。家族様には3ヶ月に一度、具体的に説明を行ない、地域の方々には運営推進会議で活用して報告を、行なっています。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を重ねていくなか、意見交換や情報提供・共有ができてきたと思っています。今後のサービス向上に繋げていけるように取り組んでいます。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所でしているイベントにも参加させていただき、市の様々な部所の方と関わられるようにしています。顔や事業所の事を知っていただける場とさせていただきます。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見人の契約者は、現在居ておられません。	○	今後、契約される利用者も増えていく事と思います。権利擁護・後見人制度について、職員全員が理解、周知できる様、これから研修会に参加し、勉強会を開いて行きたいと思っています。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	常日頃より利用者の身体に変わりはないか、見させていただき、申し送りや、ノート・介護記録に残して職員間で情報の共有をしています。	○	高齢者虐待防止関連法について、知識は未熟のため、勉強会を開いていきたいと思っています。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の前に、ホームの方針等を説明、提示し、利用者や家族には、事前に情報収集用紙に、詳細まで記入出来る様工夫したものを渡しています。また不安や、疑問点について話を聞かせていただき、納得していただけるまで説明しています。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の方が、何気なく言われている言葉にも耳を傾け、少しでも心地よく暮らしていただけるように、苦情対応委員会にて改善に努めています。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	体調の変化・受診に関しては、随時家族様に報告させていただいています。又、日頃のご様子や職員の異動に関しては、各利用者の連絡ノートにて、お伝えしてます。金銭に関しては、小遣い帳に記帳し、月末に家族様へコピーをとり、送付しています。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を玄関先に設置しています。家族様が来られたときは、積極的にコミュニケーションをはかり、ご意見苦情を聞かせていただくようにしています。また苦情対応委員会を定期的に開催し、運営に反映させています。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見や提案を日々の業務や運営に反映できるように、意見をしやすい職場環境作りを、心掛けています。それにより、職員一人一人が事業所を作り上げているという意識を、もってもらうようにしています。	○ 事業所に対し不満や意見を、より出していただけるように、家族会のあり方をご家族と共に、また運営推進会議の議題とし、考えていきたいと思っています。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	急を要する状況の変化の場合は、柔軟に対応しています。時とし、勤務体制によっては、柔軟な対応ができない場合もありますが、急変・急用時は常勤スタッフに連絡が取れるように、対応しています。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職を、抑えていく心掛けとして、職員の声を拾い上げる、休みを取り易くする、業務は時間内に終えるように配慮しています。職員の定着を確保し、利用者との馴染みの関係を築いています。		
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験や段階に応じて、研修機会を与えています。各研修参加後は、報告書を作成していただき、グループホーム内にて伝達講習をしています。	○	定期的な勉強会を、増やして行きたいと考えています。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大阪認知症高齢者グループホーム協議会に加入しています。今回、認知症実践者研修を受講したことにより交流のネットワークが広がりました。	○	ネットワークが広がったのを、途絶えさすことなく継続していき、互いの情報交換や研修会をして行きたいと考えています。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員がゆとりがなくなるような人員配置、残業、休みや有休が取れないような環境にならないように、配慮しています。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	グループホームの理念に基づき、職員一人一人が理念に向かえるよう自己にて向上心を持てるよう、研修会への参加を設けています。資格修得へのサポートへも取り組んでいます。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所前の面談にて、本氏が求められている事や、内に秘められている事などを傾聴させていただいています。グループホームとしては、事前にミーティングを開き、職員に本氏の意向を伝え、今後のケアプランを立案しています。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご本人の場合と同様、入所前面談に傾聴させていただいています。又、ご本人の前では言い難い場合もあるので、別の形で、家族の方からお聞きできる体制を設けております。	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所相談という立場だけでなく、相談の窓口という立場に立たせていただいています。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所までに面接・相談の機会を多く持ち、また体験入所という形もとっています。入所後は、意向に沿える様に家族の会など通をじ築いていける環境作りをしています。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者を、要介護者としてみるのではなく、生活を共に送る人として、関わりを持たせて頂いています。年配の方の知恵袋というのは、今の時代にも貴重であり、学ばさせて頂くことがたくさんあります。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	日々のさり気ない事や言動、イベントに参加され喜ばれた様子など、利用者ごとに家族の連絡ノートに良い事、悪い事も記載し、家族と共に支え合う意識を持っていくようにしています。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	お互いの生活を始められ、利用者と家族との距離感が、よい関係になっていくよう、支援させていただいています。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人の方や、今までの馴染みの方が、気楽に足を運んでいただけるように、職員からお声をかけさせていただいています。時には昔住まわれていた近隣を、車でお連れしたりしています。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	今までの環境が違った者同士、共同生活をされているので、時にはぶつかり合いもあるが、分かり合っていく場面もあります。出来るだけ職員は、口出しせず見守りをしていますが、互いの代弁役として立ち入る事もあります。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所されても家族の方からのご好意により、運営推進会議に参加してくださっています。近隣で、お会いした際には、お声をかけさせていただいています。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の方から希望が出れば、勤務体制に不備が出ない限りは、入浴、買い物、散歩など、希望に添えるように心掛けています。嗜好品に関して、配慮をしています。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者との普段からの会話や、家族の方からの情報やバックグラウンドより把握させていただいています。又、昔から使われていた物や、アルバムなどを持参していただいています。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日の生活の中で、利用者がどのように生活されているか把握に努めています。いつもと違う点がないか日々、様子を観させていただいています。	
0			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	個別ケアを実践して行く為に、他職種のアドバイスもいただいています。、出来る限り利用者の家族が入ったカンファレンスを取り入れてます。又、利用者の方にも実際にカンファレンスに参加して頂き、サービス計画書に反映させています。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	個別ケアを実践していく中で、日々利用者の変化が生じ、見直しが必要な場合は、事前に本人や家族の意向を聞き、職員や関係者からのアドバイスや意見を出し合いカンファレンスを開き、計画書の作成をしています。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に個々の日々の様子や、気づきや実践などを記録として残しています。又、番号にて振り分けてある介護計画書を作成しているので、沿って実施できているかの確認を兼ねて、実施している場合は番号をつけています。実施により、見直しに活かせてます。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の都合にて受診できない場合の付き添いや、外出援助の支援など、状況に応じ柔軟に対応しています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の町会長、民生委員の方々からの協力も大きく、デイサービスが隣接している為、ボランティアがこられると参加させていただき、警察・消防の方には搬送や消防訓練等の協力提携をとっています。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	実際にはグループホームで生活している中で、他のサービスを受けられる事はありません。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現時点では、地域包括支援センターとの協働は、していません。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	以前からのかかりつけ医にかかっておられる方もいます。母体の病院とは、定期健診や緊急時対応の体制が整っています。週に1度は訪問にて看護師による健康チェック・歯科往診に来ていただいています。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	相談や治療を受けれる専門医との関係はあり、支援体制は整っています。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	週1回、健康チェックに来てくださっている看護師と顔馴染みになり、利用者も楽しみにされています。看護師を通じ、主治医・病院との連携も図れています。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	病院の相談員や関係者との情報交換はしています。本氏の状況・状態を確認し合い、出来るだけ適切な時期に退院出来る様に支援しています。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期や重度化した場合の対応については、医師・看護師・介護職員・家族と共に話し合い、方向性を確認しながら支援の決定をしていっています。現時点では、看取りの実施はありません。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	今後の変化に備えて検討や、準備を行なっています。終末期の利用者がより良い日々を暮らせる為の体制は整えています。	○	これから避ける事ができない終末期や重度化に職員が、柔軟な対応が出来る様、研修会や勉強会に参加し個々がきちんとした知識を高められるようにしていきたいと思います。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	生活されてきた環境や関係、地域との繋がりなど本人のダメージが、最小限に済む様に努めています。入居される場合は、馴染み深い品々を持参していただいた、生活スタイルが変わらぬよう配慮しています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1) 一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	勝手に居室に入ったりせず、入室する前は事前に了解をえています。フロアで失禁の状態の話はしない、使用後のパット等は他の利用者の目に触れないようにしています。記録にはイニシャルを使っています。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日々の生活の中にて、何気ない会話や仕草のなかにも、本氏の希望や思いを読み取れる場合があります。その事を聞き流さないように支援しています。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入所される前の本氏の生活歴を知り、ホームにおいてその生活が持続出来る様、またその人らしい生活を送れるよう支援しています。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	以前は2ヶ月に1度、訪問美容に来ていただいてましたが利用者の希望にて1ヶ月半に1度来ていただく事になりました。訪問美容の方が同じ方なので、気軽にカットの長さなど相談されています。男性の方には、髭剃りの声かけをさせていただいてます。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下ごしらえ、盛り付け、配膳・下膳、食器あらいなど利用者のペースに合わせていただいています。職員から声をかけなくても、流し台では利用者同士が、譲り合いをされながら使われている場面もあります。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	タバコに関しては、喫煙する場所を設け、好きな時に吸っていただいています。「お菓子食べたい」との希望が出れば一緒に散歩がてら買いにいきます。フロアには日頃飲まれる物は、用意しています。		
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	自らいかれる方もいますが、個別に排泄パターンを知るようにしています。ご自分から行かれない方には、自尊心を傷つけることなくトイレ誘導しています。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	職員側から「お風呂どうですか？」との声かけをし自己選択していただいています。希望が出てこない方には促しをしています。拒否時は、無理強いせず、後日や間をあけたりする配慮を心掛けています。また、毎日入りたいとの要望時は、柔軟に対応しています。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個々の睡眠リズムを知り、気持ちよく休息していただけるよう、ソファで休みたいとの希望時は休んでいただき、寝付けなく不安の様子の際は、眠るよう急かせずに、好みの飲み物を提供し職員と会話したり、側に居る配慮をしています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	今までされてきた趣味をホームにて継続出来る様に支援しています。していただいた事への感謝を伝え、又利用者の方からも、して欲しいことをお聞きするようにしています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に 応じて、お金を所持したり使えるように支 援している	お金は基本的には、事務所の方で預かっていま す。買い物に行く際の支払いは、職員は付きます が、できるだけご自身で、支払いが出来る様に配 慮しています。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひと りのその日の希望にそって、戸外に出かけ られるよう支援している	玄関と裏口を開放する事で、気兼ねなく外に出れ る配慮はしています。外出希望時にも外出できる よう配慮しています。日常的に、数人の方をお連れ し足湯や乗馬クラブの見学などに出かけていま す。選択、決定が困難な方には外出機会を支援し ています。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けな いところに、個別あるいは他の利用者や家 族とともに出かけられる機会をつくり、支 援している	四季ならではの花見や、観光地などにいかせてい ただいています。今年は、ずっと生まれた郷に帰 りたいと短冊に願を書かれていた利用者の希望が 叶い、家族、利用者、関係者と共に行って来られ ました。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をし たり、手紙のやり取りができるように支援を している	電話希望が出る場合は、掛けていただいています 。遠方に住まわれている家族とは、寂しさが 募ってくる前にこちらから電話をさせていただい たり、向こう側からも気軽に電話をしていただい ける配慮もしています。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人 たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地 よく過ごせるよう工夫している	面会時には、明るく職員から挨拶をし、日頃より こちらから話し掛けをしてコミュニケーションを とり、気軽に立ち寄っていただける雰囲気を作っ ています。		
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指 定基準における禁止の対象となる具体的 な行為」を正しく理解しており、身体拘束を しないケアに取り組んでいる	利用者の方が身体拘束を、しなければならない場 合を除き、どうにか環境設定で回避できないか職 員一人一人が利用者の立場に立って考えていま す。身体拘束はしてはいけないということは理解 し、周知しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームは道路より奥に建てられており、玄関は事務所の前であり、目は届きやすくなっています。ロックキーも利用者の手の届く範囲にあり、自由に出入りできるようになっています。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	動きを静止することなく、利用者が移動されている際はアンテナを立て動きを察知しています、足元が不安定な方には背後より、見守りをしています。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	自発的行動を妨げないように、使用によっては危険行為につながるのを、職員は目を離さず見守りをしています。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	利用者の個々の今の状況に応じ、事故防止に努めています。事故が起こった場合には、事故防止委員会にて再発防止策を検討し、全職員に伝えています。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルの作成はしていますが、定期的な訓練はしていません。	○	あらゆる事が起きた場合に、冷静に対応出来る様に定期的な訓練・対応方法の訓練を行なっていくよう考えています。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に防災訓練を消防署の協力を得て2回実施しています災害時マニュアルを作成し、職員全員で確認しています。非常時の食品・物品は、グループホームにて用意しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	日常では避けられないところでもあります、その人らしく暮らしていただけるよう抑圧感がでないように対応しています。起こりえる可能性のあるリスクについても家族への説明はしています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調の変化や異変には、職員一人一人が気をつけています。申し送り等にて情報の漏れがないようにし、又速やかに対応出来る体制も整えています。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者が何の薬が処方され服用されているのか一目で分かるように写真にて一覧表にし、ファイリングにしています。個人の受診ノートも作成しています。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	運動や飲食物、腹部マッサージなども取り入れ、自然排便を心掛けています。それでも便秘傾向の利用者には、主治医と相談し、下剤の処方をしていただいています。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、利用者に応じて口腔ケアをさせていただいています。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を把握できるよう記録にて、残しています。テーブルには必ず、お茶とコップを用意し、いつでも飲んでいただけるようにしています。自ら飲水されない方には、飲み物の提供をしています。月始めには、体重測定をしています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症マニュアルを作成しファイリングしています。周知できるように事務所のデスクに置いています。感染症に関する施設内研修を開催し、全職員に伝えています。感染症の流行時には、防止策としてホームの消毒（次亜塩素酸ナトリウム）をしています。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板、包丁、ふきんなど毎日使用するものは消毒しています。食材は前日に入荷していただいたり、作り置きはしないという事に努めています。		
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関は施錠せずに、気楽に出入りしていただけるようにしています。季節によりますがプランターを、玄関通路に置いています。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは、周りが田畑のため見渡しが良く、圧迫感も無く開放感があります。バリアフリーになっており流し台も高齢の方の高さに合わせてあります。利用者の方はフロアのソファや各テーブルにてくつろがれています。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	パブリックスペース・セミパブリックスペースや個室、玄関先のベンチ・裏口のベンチ・東側にミニテーブルを設置しており、利用者の方々には自由にくつろげる場所にて過ごしていただいています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 せるような工夫をしている	各部屋には基本、ベッドと寝具・タンスは用意さ せていただいておりますが、出来るだけ馴染まれて きた品々にて過ごして頂ける様、本人・家族と相 談し持ち込んでいただいております。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないう 換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	常に換気は、行なっています。暖房や冷房の設定 温度も、その日の気温によりこまめ調整していま す。利用者の方にも室温設定が心地良いか、聞か せていただいております。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	洗濯をされるが手順がわからない場合に、手順の ポスターを貼ったり、操作の仕方をその都度お伝 えしたり、トイレが分かるように張り紙をし たり、さり気なく場所をお伝えしたり、個々の部屋 が分かるように工夫しています。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	個々の力や、ペースを介護職員が知るように心掛 けています。自らしていただいた事に、自信を 持っていただける言葉かけをし、常に利用者の立 場になって物事を考えています。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	外周りにはベンチを設置したり、また四季の花を 植え育てたり、ポストに新聞を日課のように取り にいただいたり活動範囲を広げていける よう配慮しています。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

グループホーム田井城の里では、スローガンとして「表現を受け止められる人になろう」という言葉を掲げています。今まで「問題行動」と言われてきた様な行為や発言、言葉ではない表現とも向き合い、認知症状として簡単に処理することのない様、入居者の生活における権利を尊重し、その人の中心のケアに結びつける意味を含んでいます。自己選択・自己決定・自己実現を尊重し、何も考えず生活のできる環境ではなく、その方々に合った適度な住み難い環境設定も取り入れ、他人の力に頼らず、どうか自分で選択・決定したことを、達成していただける充実感のある生活を、職員の監視の下ではなく、心地よい見守りの中で送って頂きたいと、考えています。また、テーマとして掲げるのが「ストレスのない介護」です。認知症を誤解なく正しく理解し、考えを少し変えるだけで、本人・介護者ともにストレスなく生活が続けられる考え方と環境を追求したいと考えています。これは、グループホームだからこそ出来る介護として考えるのではなく、いずれは地域の認知症高齢者を抱える介護者の方々にも参考にしていただけるよう、在宅でもできる認知症介護として発信していきたいと考えています。現段階では、スローガンを軸として、利用者主体の生活を実践し、テーマに向けて実現出来るよう、追求している段階です。